

漁海況情報

平成30年10月15日 第14号(通巻636号)

山口県水産研究センター 外海研究部 〒759-4106 長門市仙崎 2861-3

TEL : 0837-26-0711 FAX : 0837-26-1042 Mail : a16402@pref.yamaguchi.lg.jp

【海鳴りネットワークホームページ】 <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>

【ウルメイワシ情報】

今期のウルメイワシの来遊量は前年・平年を下回っています。その理由について、現在当センターが入手しているウルメイワシの情報を提供しますので参考にしてください。

1. 湊市場におけるウルメイワシ漁獲量の長期変動

浮敷網(棒受網、すくい網)による漁獲量の推移は、1989年をピークに、それ以降減少傾向にある。銘柄は1989年までは小・中羽が主体であったが、1990年を境に大羽の割合が増加している(図1)。近年は7~8月から小・中羽が漁獲されはじめ、9月から大羽が混じるようになり、10月末頃に漁期が終了する。

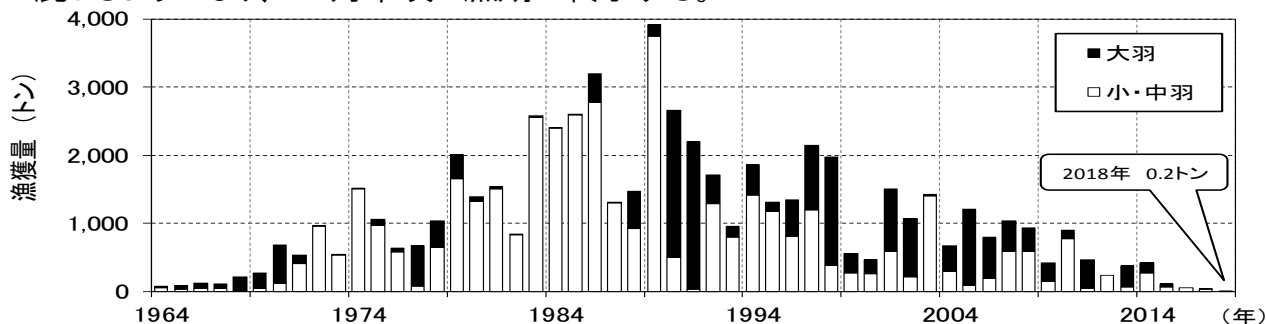


図1 山口県漁協湊市場のウルメイワシ銘柄別漁獲量(2018年の漁獲量は9月末までの値)

2. 今期の漁模様

1) 湊市場

棒受網漁船の漁獲対象は7月以降、カタクチイワシに集中しており、ウルメイワシは7月下旬~8月上旬に混獲された0.2トンにとどまった。また9月に入っても油谷湾、仙崎湾でカタクチイワシ漁を続け、ウルメイワシは水揚されなかった(図2・左)。

2) 特牛市場

特牛市場の棒受網漁船によるウルメイワシの漁獲量は7月以降次第に増加したが、9月で9トンと、昨年と比べ低調であった(図2・右)。探索してもウルメイワシのまとまった魚影は見られないため、沿岸漁場でカタクチイワシ漁を行った。

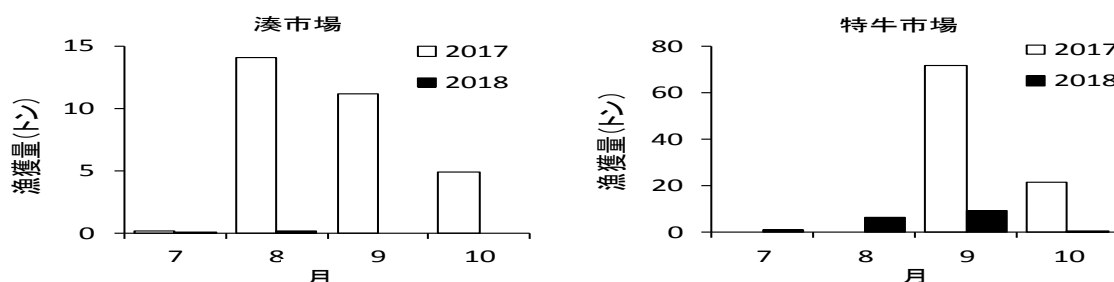


図2 2017・2018年の湊市場と特牛市場のウルメイワシ月別漁獲量(2018年10月は12日までの値)

3)長崎県

長崎県北松南部海域で操業する中・小型まき網の 7～8 月の漁獲量は、大羽主体で 299トンであった(前年同期比 242%、平年同期比 50%、平年値:556トン)。

* 長崎県総合水産試験場発行・漁海況週報より集計

3. ウルメイワシ卵の分布密度

山口県沿岸域で漁獲主体となるウルメイワシは、5～6 月に山口県海域を含む対馬海峡周辺で生まれた後、9～10 月に 90～150 mm に成長したのと考えられる。

本年 6 月のウルメイワシ卵の分布密度*(図 3 左)は、前年(図 3 右)と比べ低かった。また、同海域の過去 5 年の 5・6 月の平均卵密度(図 4)によると、本年は前年・平年を下回っていた。

※我が国周辺水産資源調査・評価等推進委託事業で実施された卵稚仔調査データ

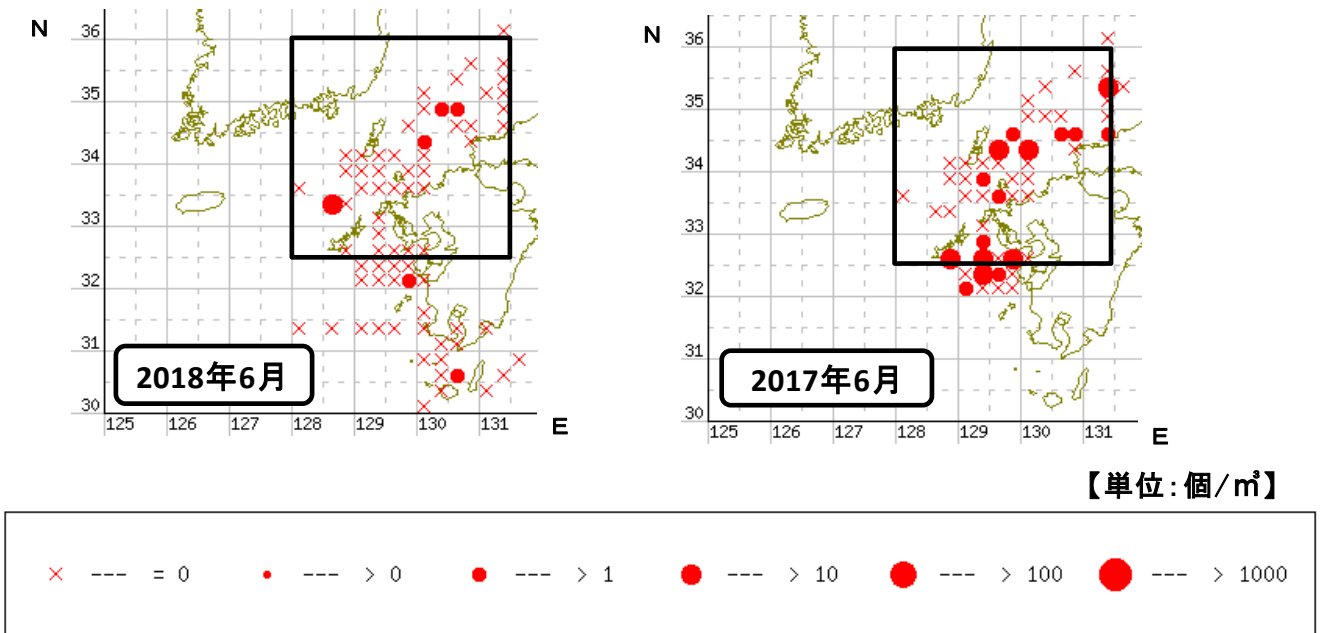


図3 ウルメイワシ卵の密度分布図

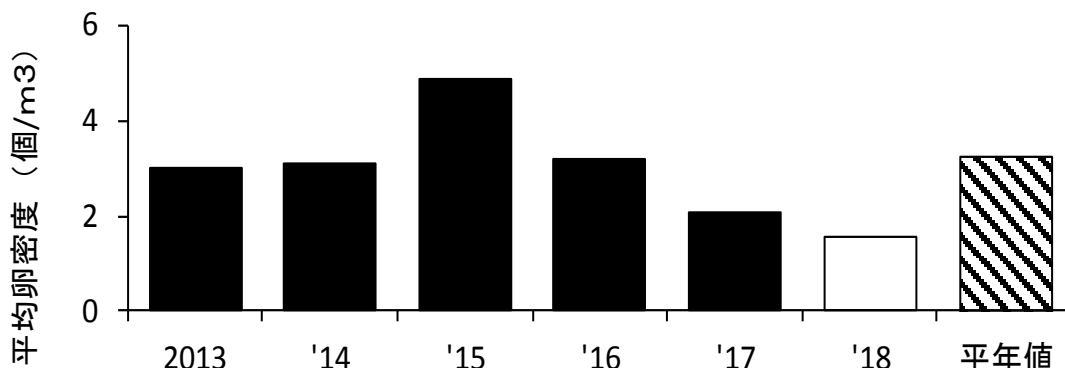


図4 図3の黒枠領域における5・6月のウルメイワシの平均卵密度

これらのことから、本県では今年のウルメイワシ来遊量が少なかったと考えられます。